

アート教養課程

科目	絵画A [抽象]	絵画B [具象]	インスピ レーション 研究	自主 [A]	西洋美術史	現代美術史	彫刻	映像	現代美術	美術館	デザイン 演習 [A・B]	自主 [B]	作家 表現論	修了 制作
内容	1-1 絵画材料基礎 【支持体実習】「0」から始める。キャンパスの貼り方、支持体(木枠、パネル)の作りかた—参考:シェイプ・キャンパス(フランク・ステラ) 【色彩(混色)実習】混色の基本、彩度、明度の調節と作成した支持体での抽象画制作 4回=2単位 □	1-6 【油絵具象表現】 静物・人物・風景等、具象的で多様なモチーフ(イメージ)を用いて、新しい絵画概念および絵画様式を目指す。3課題=3単位 □ 1-8 kotte特別講習会[3] 【油絵写真表現講習(Photo Realism)】 絵具感を排除した高度な描写テクニック。自身で撮影した写真を用いて、正確に描写せよ。6回=4単位 □ 1-5 【人物】 美術におけるの人物表現とは何か。「人物」を総合的な概念から多角的に探り、実践する。あなたにとっての人物とは何か。(参照:ピカソ、マティス、ベーコン、シーレ等) 3課題=3単位 □ 1-4 kotte特別講習会[2] 【デッサン力強化レッスン】 12素材の描き分け、筆圧、コントラスト、明度、素材による鉛筆の持ち方の違い) デッサンとは何か、今日のアートにおいて、素描やドローイングとは異なるデッサン力(描写力、写実力)とはいかなる役割を果たすか。8枠=4単位 □	5-1 美術に限らず作品とは、森羅万象よりインスピレーションし、発生したものである。 例)哲学、科学、物理学、人間関係、宇宙、民俗学、建築、機械、笑い、政治、自然、環境、災害、AI、技術革新、倫理、善悪、宗教など多岐に渡る。 あらゆる事象を観点に則り考察せよ。3領域=6単位 □	4 1 中 間 自 主 制 作 過 程 2 単 位 □	古代から19世紀までの美術 3-1 【1章 ①②】 古代・人間とは何か、一美術の発生、原始美術、宗教美術〜縄文、古代ギリシア、古代エジプト—ポンペイ遺跡の埋没、プリミティブとは何か、普遍、時間を越えた美術。2回=2単位 □ 3-2 【2章 ①②】 中世・宗教、宮廷美術—画家の誕生—ダ・ヴィンチ、レンブラント、フェルメール、ベラスケス〜 2回=2単位 □ 3-3 【3章 ①②③】 近代・プロパガンダから大衆芸術へ、芸術家の夢—ロマン主義以降の美術—「美術」の誕生、印象主義、後期印象主義〜 3回=3単位 □	20世紀以降の美術 2-1 【4章①②③】 抽象画の確立・デュシャンの登場・前衛芸術の開花—フォーヴィスム、デュシャン、ダダ、バウハウス、未来派、形而上絵画、シュルレアリスム〜 3回=3単位 □ 2-2 【5章①②③】 パリからN.Y.へ、大戦後の芸術—大量消費社会の芸術へ—抽象表現主義、ミニマル・アート、ポップ・アート〜 3回=3単位 □ 2-3 【6章①②③】 芸術の多次元化—概念芸術(コンセプチュアル・アート)の誕生—キネティック・アート、コンセプチュアル・アート、パフォーマンス、ハプニング、ヴィデオアート、ボイス、日本の前衛芸術 3回=3単位 □ 2-4 【7章①②③】 ひらかれた芸術—もの派、アースワーク、インスタレーション、地域アート、ニューベインティング、メディア・アート、サウンドアート、SEA、ネットアート、政治と芸術、SNS時代の芸術〜(現代美術講義・つづく) 3回=3単位 □	彫刻とは何か/立体的な概念とは何かを理解する。現代以降の多様な素材とインスタレーションへの拡張を視野に入れ、真に作品とは何かを問うことができるようになる。 6-1 【塑像】 実在のモチーフを粘土で立体的に模することができるようになる。自刻像=2単位 □ 6-2 【多素材】 新たな造形材料(石膏、樹脂、シリコン、コンクリート、石、蠟、金属等)を扱えるようになり、作品素材の可能性を自ら拡張できるようになる。2作品(2素材)/各30cm ³ =4単位 □	映画、ドキュメンタリーと美術の表現の違いを考察する。 7-1 研究 【映画】 ヒッチコック、ゴダール、キューブリック、黒澤明 他 2作品=1単位 □ 7-2 【現代美術】 ナム・ジュン・パイク、マシュー・バーニー、田中功起 他—ドキュメンタリー、記録的映像作品と芸術の相違点 3〜5作品=1単位 □ 7-3 【演習】 映像作品の企画/撮影/編集/展示を行えるようになる。1作品=2単位 □	8-1,2,3 企画から制作—設営—展示—記録まで—絵画制作のみでは到達し得ない、多素材、他メディアを扱ったり「鑑賞」を意識して活動できるようにする。写真、版画、パフォーマンス、VR、インスタレーション、テキスト、SEA、レディ・メイド、フアウンド・フォト等—展示設営の知識、技術、手配が行えるようになる。公表 (SNS、HP等個人ウェブサイトの運営、ポートフォリオ、冊子等)ができるようになる。美術史の文脈から自己の立ち位置を論じる 3作品=6単位 □	実物の鑑賞—体験。展覧会を設けた観点に則り考察せよ。 9-1 「美術館」における展覧会を考察せよ。(企画展のみ。常設展不可) 12会場=6〜8単位 □ 9-2 「ギャラリー」(オルタナティブ含む)における展覧会を考察せよ。10会場=5単位 □ 9-3 「地域アート」または「その他の形態」における展覧会を考察せよ。3会場=6〜8単位 □	【kotte特別講習会[4]】 デザイン演習A,B) デザインの概念を学ぶ 10-1 【基礎A】 デザインの総合—グラフィック、テキスタイル、プロダクト、インテリア、建築などデザインの領域から考える。4回=2単位 □ 10-2 【基礎B】 デザインの考え方とは—デザインの理解=コンセプトとは何かを「デザイン」のトリアングルから学ぶ。4回=2単位 □ 10-3 【自主課題】 5課題=2単位 □	11 1 中 間 自 主 制 作 過 程 2 単 位 □	12-1 これまでの教養課程を踏まえ「今日の作品及び作家形態」において、いかなる表現領域が可能だろうか。絵画、写真、映像、インスタレーション等の他、コンセプトに伴う「最良の」表現方法を分野を問わず新しい表現形態で模索してみる。 13-3 展覧会の流れを作ることができるようになる。企画〜告知〜会期後の編集まで=4単位 □	修了制作 展示場所 13-1 ・kotteまたは各自の場所、空間での展示=4単位 □ 13-2 ステイトメント これまでの修了過程を考察し、あなたの「美術への見解」を述べよ。=2単位 □ 13-3 展覧会の流れを作ることができるようになる。企画〜告知〜会期後の編集まで=4単位 □
	1-2 【kotte特別講習会[1]】 ◎油絵35技法習得講座(現代絵画におけるTop35種類以上の絵画技法、基礎〜応用、色彩、構図、絵画史の大きな流れ) 8回=6単位 □	1-10 【自由制作過程】 1作品=2単位 □	6	2	7	12	6	4	6	20	6	2	4	10
	1-3 【抽象課題】 ミニマル・アートとは何か/コンポジションを考える/油絵の現象(テクスチャー)の利用 5課題=5単位 □	1-9 【自由制作過程】 1作品=2単位 □	6	2	7	12	6	4	6	20	6	2	4	10
	1-7 【人物抽象】 「人物の抽象化」とは何か。参考:キュビズム、オルフィスム、現代絵画 1課題=1単位 □	1-10 【自由制作過程】 1作品=2単位 □	6	2	7	12	6	4	6	20	6	2	4	10
	1-9 【自由制作過程】 1作品=2単位 □	1-10 【自由制作過程】 1作品=2単位 □	6	2	7	12	6	4	6	20	6	2	4	10
単位	16	16	6	2	7	12	6	4	6	20	6	2	4	10
教材	10-15号キャンバス、油絵具 【講】 専用ハンドブック、画材支給	10-15号キャンバス、油絵具 【講】 専用ハンドブック、画材支給	プリント、各自資料	自由	『西洋美術史』(美術出版社)、レジュメ	『20世紀の美術』(美術出版社)、レジュメ	粘土、任意材料	撮影機材、PC	素材自由、カメラ、PC等	プリント	【講】 専用ハンドブック、周囲のデザイン	自由	プリント、ディスカッション	自由

参考書籍 ●『いちばん親切な西洋美術史』(新星出版社) ●『わかるとはどういうことか』(山鳥重,ちくま新書) ●『形而上学(上)』(アリストテレス,岩波文庫) ●『現代美術史』(山本浩貴,中公新書) ●『配色の設計-色の知覚と相互作用』(Joseph Albers, BNN新社) ●『複製技術時代の芸術』(W.ベンヤミン,晶文社) ●『シミュレーションイズム』(梶木野衣,ちくま学芸文庫) ●『デザインのデザイン』(原研哉,岩波書店) ●『芸術作品の根源』(M.ハイデッガー,平凡社ライブラリー) ●『今日の芸術』(岡本太郎,光文社) ●『美術手帖2017.12月号・これからの美術がわかるキーワード100』(美術出版社)

監修:後藤てるみ
(学芸員資格 武美学芸 第1235号)
©Terumi GOTO kotte, 2022

